

# 目次



RS38  
ROVER INFORMATION

昭和 58 年度 活動報告書

— 昭和 57 年 9 月 ~ 58 年 12 月 —

👁️ 👁️ 25 周年 マデ あと 101 日 👁️ 👁️

◇ R.S 隊の活動内容について	吹田チーフ - 3-
◇ 隊長からのメッセージ	大教隊長 - 4-
◇ 櫓 ヒストリー 編集コーナー	担当
発行日	
「7月号」 S 57. 10. 16	鶴田副長 - 5-
「8月号」 S 57. 10. 6	いかにし - 6-
「9月号」 S 57. 11. 24	小島村 - 7-
「10月号」 S 58. 1. 27	西川勝 - 8-
「3月9月号」 S 58. 3. 20	山中西 - 9-
「6月号」 S 58. 6. 8日	山中西裕 - 10-
「7月号」 S 58. 8. 10	大教隊長 - 11-
「8月号」 S 58. 8. 15	大教隊長 - 12-
「9月号」 S 58. 9. 28	服部副長 - 13-
「11月号」 S 58. 11. 1	西村 - 14-
「12月号」 S 58. 12. 6	中西 - 15-
付録 団、上進式プログラム	- 17 ~ 19 -
◇ 隊員からのメッセージ	- 19 ~ 39 -
◇ 出欠状況	中西 - 40-
◇ 会計報告	中西 - 41-
◇ メンバー表	- 42-
◇ 大教君 下宿先 略図	- 43-



RS38 ROVER INFORMATION  
7号 57年10月 6日(水) 発行  
担当: 鶴田茂一

1) 日時: S 57. 9. 25. (土)  
Time: (PM) 8:45 ~ 9:30  
場所: ハウス長休  
出席者: かつた, 中西, 西村, 山川(務), 五十嵐, 大野(亮), 山川(裕), 黒宮.

- 2) 議題 及び 決定事項
- ① ケー7 選出 — 五十嵐君. (隊長) 2人  
\*本人了解不足
  - ② 役員 — 長計 ... 中西君 継続  
(場所係り兼任)
  - ③ 定例集会(毎月1回) — 水曜日 PM7:30  
→ 10月 (10/6) ④
  - ④ 機関紙の発行 — 各集会毎 (2枚) 発行  
9月: 2枚 → 2枚
  - ⑤ ロバー隊費 — 年間 約 3000-  
[但, リンジ, フォン, フもあつた?]  
田中への補助 要求  
4 年間の活動 予算の提出.
  - ⑥ 新入隊員 歓迎会 — 日程 (控) 11/6(土) 7月?  
(入社の団体で)

- ① 名簿の作成 — おみた 地デジに  
(つた 部長に決定)
  - ② 次回集会の議題
    - 4 年間の活動予定
    - 4 散居伝 ... プロ様, 日取りの決定
    - 4 「ロバーリーグ. ト. サ. 入」 に ついての展開
    - 4 新年度を向かえての 10人の抱負書.
    - 4 近況報告.
- T.D. など

追: 松原君 卒業後, 大学卒 = ロバー隊に  
いって活動が, 就職に伴って辞退  
4月卒. 2月卒 RSの席に留任  
いって ロバー隊外 各隊の専任  
おいたこと.

副長に  
新年度, ロバー隊も多ク (新隊長 2名) 2  
この充実をみて, 各隊 各隊 抱負書  
と活動-計画. 活動計画の作成のため. 2人  
のサポートのため 昨年度 以上 進めよう  
おぼへておし. [Activity first  
Evaluation follows  
Eternal spirit.]

RS38 ROVER INFORMATION  
10月6日(水) 発行  
担当: いがらしこ.

10月6日(水) ハウス長休. 7:30~  
出席者: 大野(亮), 鶴田(部長), かつた, 西村君, 中西君, 大野(亮),  
かつた, 黒宮, 小島君, 佐, 藤部副長(部長).

1) 新入隊員歓迎会.  
日時: 11月6日(土) 7時30分  
場所: 北山荘  
詳細: 各担当が決る. 11月3日に全員で集合時. 場所を決定  
打合わせ. 文庫の取扱は隊長に.  
担当: 藤部(部長), 中西.  
備品: 大野.  
九折券: 西村 以上.

2) 今年1日の担当

9日 かつた	3日 かつた
10日 五十嵐	4日 大野
11日 小島	5日 中西
12日 大野	6日 かつた
1月 西村	7日 山川の副部長
2日 黒宮	8日 大野隊長.

以上.

3) 新入隊員歓迎会.  
今年1日の担当.  
中西 ... 自分で行うか何かをどうするか. 各隊 各隊 目的を持って  
行いたい. 10月.  
今年担当, 中西隊長.  
山川 ... ロバー隊. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
西村 ... 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
大野 ... 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
五十嵐 ... 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
かつた ... 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
大野 ... 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
黒宮 ... 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.

次回は 11月3日(土) 7:30 長休. 10月25日. 10月25日. 10月25日.  
10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日. 10月25日.







9月隊集会報告

10日(土) Pm 6:00~11日(日) Am 12:15

都市公園(野洲川河口:胡岸緑地)にて

出席 大森隊長、山川勝、西村、中西、吹田、山川恭、服部 Pm 10:46 から小島 合計8名

◎ 会議に入るまで夕食会 Pm 6:00~9:00 スキマキで舌うちが、沢野当番が一切用意してくれると嬉しい。結果? 4名のお茶をクマで仲良く一隊長しらげろ 乾杯よつねに!

◎ 会議 Pm 9:00~Am 12:15 議題

海外出国者帰国報告 隊集会の反省と抱負

1. 報告

(1) 西村君アメリカ見聞記

友人と8/12~27まで16日間です。飛行時間は片道9時間、時差の関係で夜泊は夜ばかり、復路は夜ばかりでしばらくぼけていた。出発当初はBS隊集会のすぐ後でお世をひいていて苦しかったが次第に状態した。

コースは、カリフォルニア州、アリゾナ州、メキシコです。ホームステイはロスアンゼルス、サンディエゴ、アラメダの3カ所。ロスは京都と似ていて区画整理されてすばらしい。

2-1  
サンディエゴはロスよりバスで3時間、環境は最高で、生活するのんびり行っている。ここでは中途半端な英語で苦労した。たまたま理髪日本と違って残しても天札にはならなかった。驚いたのはのみがなかったことである。アラメダでは園長を含む3人で宿泊する。モルモン教の関係で食事までにお祈りがある。酒もたばこも禁めであった。

キャンプ場はとにかくうらやましい程広い。技能修得のためにいろいろ后用品が用意されている。専用のコックもいるので全員がイーグルスカウトを目標にしている。スカウトに就いて関心したことは食料の配給には進んで行くことだった。キャンプファイヤーは時間の関係で見学できなかった。

日本の施設と違ってスケールが大きいものが見え、シーワルドでは女性のピエロ、ワイルドアニマルパークでは動物を見つめるので汽車でまわる。フリーウェイは無料でない。それからグラントキャニオン。ぱくちの街ラスベガスと驚嘆した。ただラスベガスは子供は off limit で取柄も厳しいが子供用がある。メキシコではチャーターバスがなかったり、車を一緒にして後向きのリードが面白いをしらべたりで楽しい国と感じた。

全体的にアメリカの感想は、いろいろの人数が多い関係で、町幅の差が大きい。習慣的に日本とあまり差はないが、自分のことは自分でするという意識に感心した。その一方で人のことを考える気配が少なく感じた。今回参加して、日本は平和で、平和天国にいることは喜びを感じた。38回へのおみやげとして、横浜よりSSは問題が多い。第一ボタンがはずれていたり、ベルトのかぶりかたが異なるかったり、ドリル訓練の不足を痛感した。

(2) 中西君中国見聞記

8/1~31までの15日間、中村三太郎副隊長と一緒に。神戸から船で1時間天津へ。総員500名(学生400、スタッフ100)の大団行。1組32名(男女同数)の編成で各車8名づつになる。

11-1  
出航時に台風襲来で、正午が午後5時30分になった。全体的にはスケジュールが一歩いでもうケレ余裕がほしかった。

天津の近くのお人々では、女子が熱烈歓迎(ロウレイファン)としてくれた。街全体土々く感じた。建物モレンが作りが多かった。天津では神戸ポートアイランドに似たらしいパンダと出会った。天津は天津港という感じであるが30年前の日本とのこと。天津港は泊ったがヨーロッパ風になっている。歓迎は自分自身を持って上手である。北京郊外はパトカーの光で定着。教習は人民大会堂(国会議事堂)で、大い街である。上海は船で泊まる。洋上祭もありお世話を(みもの?)

南京は天津に行く。うがだという所が戦中の記念公園がある。南京大屠殺があり、痛恨もさそれていないのび訓練として残されている。日中友好の障害要因にしないよう配慮がなされている。

今回の中国感。若人は明るく笑顔もうまく。通訳は2~3人で自乗をマスターする。前地の通訳が自主したこと。大通りに草木でうめらしていた。全体的にのびりして子供が素直であった。

参加しての感想は、知らぬのさどうして個人が相手のことを理解することを学んだ。今後他の人も参加してほしい。

(3) 隊長の西遊見聞記

6回目の海外で必死がなつた。初めての感動は人々を逢う方法が面白いので大事にしてほしい。

今までと違って旅行手続一切を自分でしたのでフラットでホテル現してしまっただ。しかし、ドイツでは自分で動いてくるという言われ、結果的に自信が深まった。また英語も進んでドイツ人、スイス人他と仕事について討議ができた。

2. 反省と抱負

山川 9月入隊したにもかかわらず、前半は愛護で中途退席

2-2  
4月からBSの奉仕として、RSが広く活動しているのが分かった。また仕事についている人もいろいろ活動しを聞くことができて参考になった。誓の発行が通れた。

隊長 4年も隊長をしているのでマンネリ化が心配。集会の持ち方、誓の発行、報告について意見。

小島 今年の3月に退席。自分自身を厳しく、社会の厳しさを知った。集会には十分参加ができず残念。RSの活動は進んでいると思うし、今後も時間のある限り参加したい。リーダー候補もマスターしたい。

山川 集会はマンネリ化していない。RS活動は、グループ活動でもあり、個人活動でもある。ただこれだけ活動的なのは、制約があって難しいが継続してほしい。

西村 時間的制約があって集りにくい。隊長がご厚意でこれとあって実行がなされた。今後は集りやすいの誓に、回は月1回が良い。来年は25周年で目標がある。

中西 いろいろの立場の人がいて集りにくい。内容が面白いのでは、例えば、ローバで何が出来るか。

服部 チーフと責任が課せずご厚意が。現在は自覚ができたので2月まで頑張る。25周年に向け精進をつくる。

隊長 報告と、議題は事前にきめておく。自分のものにできた。誓は事前に用意を、内容を良くしたいのでは!

“まとめ”

- 25周年を中心テーマに活動する。
- ローバリングアクセスは、読むところを自分でできる感じとあいてくる。
- レジメは事前に決定する。連絡の徹底と出欠の確認。
- 集会日は毎月第1木曜 Pm 7:30~ ハウスまで

次回 10/6 西村、中西 両氏は参加報告と 功家







1983.12.25

ローバー活動から学んだこと

副長 服部陸佐

この世に「おざあ」と一声を発した時から人生が始まります。人にはそれぞれの一歩があります。しかし、個人でできることはほんの少しです。ですが、他の人々のたすけをかりることで自分ではし得ない事柄が次第に完成していきます。それは仲間の集りがあるからです。でも常に自己努力がなければ自分のものにはなりません。今日も幸せであった。明日も幸せであるために、計画、実行、反省が大切です。人生に燃れおしは損じませんが、訓練はつみ重ねることで成長します。それにもかわらず、~~でも~~すれは「何しようかと思っていたができた」一歩や勇気があるような言葉ですが、できた、いやする気がなかったの記です。この言葉を自分からも、ローバーからも一層したものです。幸福な人生を歩むために、

ふも君達も。

孫原

「ローバーパワー」に期待する

副長 中村三三助

近年、サンパチローバー隊が地道に活動を続けて来た結果、成自由のつがわりよく、人物関係が望み育って来た様子を感じ、大変、代強く思っています。これは、サンパチ田舎族特有の雰囲気とスカウト活動の持つ生涯教育の魅力から成るものであると思う。又、当然、隊長はじめ、ローバー一人一人の意欲、実践力は言うまでもない。

この頃、若少年の非行問題が若くはクロスアップエム、知原目、一つは、少年期に突いた「しつけ」が何れも欠ける。基本的な生活習慣ができていないと言うことである。本来、家庭で育てべき事柄が、現在では、学校教育の中でおぼろげに、とり上げられて、望ましい生活態度、社会的マナーを指導して行かなくてはならぬと、と云うのが、取り組まれている。

そして、ホーイスカウトは、どうなのか？と見た場合、大抵の親は、「ホーイスカウトが、まじりて来たら、よ」とは決して言えない現状である。これは、決してこの村に放置しておいていいはずがない。何も、社会、一般世間の目を背けておかない。このことを言っているのではない、この運動の充実と発展を願う一人として、大いに気にかかっている。ホーイの身から言わして、もうこれやるべき事が、できていないのである。やるべき事を指導して行くのがリーダーである。今、ローバーの目覚めと認識と、そして実践が待たれているのである。実際、その力は、ローバー諸君一人一人にかかっている。

今、おぼろげに、ホーイ活動を続けて来た、それを感じ、それだけ、ローバーを、ふいて、誤りだが、その進路を定め、スカウト活動、スカウト教育のあり方、原理を探り、やるべき事を見つけてほしい。そして、スカウトの道を歩む一人として、何ができて、何が何をすべきなのかを、明らかにして、自己啓発につなげて行きたい。

# Rover 新入隊員をむかえて

ボイラの隊長を引受けて、見や7年の月日がたつた。その間の  
自身いろいろとスカウティングについて勉強できた。又現在も実務的  
には、R.S.活動力において、スカウティングを自分なりに学びとっている  
状況である。さて、本日、R.S. 隊集会でシニアスカウトからの人  
上通して来た。その諸君らは、私が隊長を引受けた(C.B.S.)  
時のスカウトである。彼らが、全員そろってローバーまでスカウト  
活動力をつぎや今日こうしてローバーの一員としてむかう下は、

このことは、やはり私にとりて非常に感謝なことである。  
ついでに、この前まで、ボイラの一年目スカウトとして見ていたスカウトが、大いに  
成長して居ることをいふこと。この時こそ、リーダーをやつてい  
る苦労があるが、自分にとり、勇気づけられる……言葉で表わせば、  
身辺にもある。そして又彼らが今後、その自分の目標に向つて  
スカウティングを……人生を……歩んでいくと、良き相談相手として  
今後ボイラの中で頼りにするやうなやうな……

ついでに、人間関係、私は大切にしたい。  
さて、来年は25周年である。最近スカウティング活動に限り、  
社会的にもいろいろと複雑な問題、時代の潮流……等、  
むずかしい世代にたつて来ている。それだけに一人の場やと  
協力、奉仕の精神が必要である。又、自分の事を精一杯と  
して大志にあると思う。とにかく、おやと見るやうにた。  
— "activity first" —

お 12.27 西村 27  
PM 11:27

## この一年を振り返って

この一年、長けた様にも、おかげで期間は過ぎた様に思える。  
ボイラ隊長として何もいかに時に始め自分目に見えな  
いところで多大な迷惑を色々な人にかけていたのではな  
い、かと思ひます。でもそのおかげで、本当にいろいろな事を経験  
させて頂いたと思つております。その中の失敗等は数え上げ  
がたい程ですが、そういう事も回りの人達や大まか目で見下  
さり又やましくアドバイスして下りました。そういう事も一般社会  
では通じませんが、その過程と又個人の成長を大事にしてもらえるスカウト  
活動ならではと思ひます。

個人的にはアカイカに行った事がこの一年を通じて非常に心に  
残りました。この旅行が今後と何かの役に立つと思つていま

はにかき今、僕は人生において非常に大事な時期にさしかかつて来  
て、二一二年の自分の進路、行き先と行った物が具体的に見えて  
来初めです。だから、こういう時期を向かへた時にこそ、今まで  
長年やって来たスカウト活動、学んだ事、思つた事、又大学生活が  
経験、思ひ込んだ事と生かしていかねばと思つていま

人生とは？ 仕事とは？ 自分のやりたい事とは？ 非常に大まか  
で、そんな事に、答の出るものではないけれど、おかげで自分の  
考え、思いと言つたものを固めていけたら、言つた、いかんけ  
いばで済んでいこうと在道感の様なものを感じていま

まあ、こんな事を書きおろしても、ヒトおらずは目の前にぶら下がつて  
25周年、後期試験に交つて頭を痛めており、こう言う一つ  
の事に付いて頑張つていく内に徐々に目の前が開けてい  
くと、新しい世界が、新しい世界が、新しい世界が、新しい世界が、  
あつてい

1983年12月25日 西村 浩行

## 4年間のローバーリング 山川 勝也

4年間のローバーリングは、僕にとって かのりタン、学校、バイト、などの生活面であったようだ。

ローバーリングトウサクセスにも書いてあるようにカヌーを漕ぐことは自分自身の人生であると考えている。

ローバーリングは、自分自身で計画し実行していかなければならないのでこの4年間は、人にたよらずにこれたように思う。しかし反省してみると、人に迷惑をかけた。人に左右されたことが少なくなかった。

カゴの隊長をしたことは、自分にとって大変つらさになった。楽しいと思ったことは正直いってほとんどなかった。スカウトを指導する<sup>合</sup>ということがいかに大変であるかということをつくづく感じた。しかし一年間やりとげて終って見ると自分が一歩前進したことに気がついて大変うれしかった。最終同組集会の時、スカウト11人に「年間ありがとうございましたと言われた時、言葉も出ないほどだった。スカウトみんなに感謝されて一歩前進したような気がした。

## <二の一年を振り返って>

私が二の一年を振り返ると、ボーイ関係、学校関係 etc で行動してきた中には失敗もあれば、ほんの少しの成功もあり得るが、それらの失敗や成功の中で思い知らされたことは、自分が中途半端な形で物事に与りこんだ場合には、それが成功しても失敗しても、何の感謝も得られぬ程、事が正しく進められていくだけでいいことだ。何か新しい事に与り込むには、自分自身を中途半端にはたさないように気をつけよう。さらに、その事に与り込むには「燃えろ」といってあげ、出て来た結果は、自分にとって何の価値も無いものになるかもしれない。今更には、何かは「燃えた」といってほっとした方がいいが、自分のまわりには燃えろという人間というの。二の一年間は、99%見つけることができた。彼らは、一つの目標に向かい、全力を尽くしてがんばり、百パーセントあり、ガッツがあり、完璧癖はありますが、中途半端な事を好みません。自分どうにかある程度コントロールできる能力を身につけています。そして何よりも、彼らは、意味で「自分自身にできる人間」です。私は今後、これらの人々の生き方を少しも見習ってみたいと思っています。エッセイは、本気で書くのは恐怖ですが、他の人のために少しは吸収し、これからは自分啓蒙になると思っています。

<42> 三 ハオ  
中西 若

Rover との付き合い

1983年の春から東京の大学生が主なり。キタが過ぎたのせいで初めの一年暮らし。初めの大学生活。やってみなければわからないからなかな。しりしめや喜び。非常に(勉強等の)充実した一年だった。

~~一年の生活~~ 二年を越してまだ好きはだけていった。"Art"が。自分にはしてはならない不可侵の境のとなり。また"Art"が楽しんでるという感じが次第です。

除くBoyの存在が蹴り出すやあつたに感じさせた。多分。しかし、Rover活動の本質は毎回の集りに出席するコレではないと思う。はるか東京の地において。トシツラコ結を指していきや私にこれ。これがBestはのてあつた。これ。1つのRoveringはのてはるいかと思っちゃうのや。

集まりを離れ一人暮らしを初めて。又学校の外で。集まる話しをした。体験をしたやで自分自身に本気で文化があった。1年より京都において。ぬれぬれとした集りの愛惜の元では履かせるからであつた事を体験し人間が1回り大きくなった。さながらRovering Lifeにのてはるのではないだろうか。

これから又集会には集るから出られはないと思うが。はるか都府の地で日々精進に努めます



東京に住んでる。  
大散完覇

1983年を振り返って。

この一年のスカウティングはやはり中途半端な一年であったのにははるかちくちく嫌になった。途中からR.Sのチーフになつたものの年が終るまでフルフルで終つた。

向とも自分自身はこれはない話がある。しかし、このような状態でも今年で終上筒を打つ。来年の1984年は新たな希望で再度出発したい。と同時に、大学の方も。入った以上は、当然、卒業を意識し。着実に単位を取り、残り大学生活というものを有意義に過ごしてしまいたいと思う。

何事にも最後までやり遂げるように実行してつきたいし。生半可な事は全休にやらず。自分の感えた用は「やらず最後までやり遂げ、やらずには全休にやらず」をテーマに。これが20才を過ぎた人生をまはりたい。ヤンキー精神はもう終わり!

ボーイ隊の方にもこのだけ目を向けて。去年を上回す。38回に盛り上げていけ山は。幸せである。さて今年も少しは無理をしても。去年の上進式には全員12月の17日の車を胸につけていこうように1-2にいつてやりたい。

しかし、上進だけの事ではなしに、中味のある。実用的な物を手にしてやる用にグウワンバシつてもいい。そうすれば、来年のボーイ隊はやはり期待できるものになるであらう。!

京都府38回 ローバー隊

チーフ 吹田 元路



シニアリング三年間を通じて 松本 龍太郎

シニアの三年間、自分の奉仕活動としては大へん有意義なものであったと思う。カブのインストラクターとして二年、ボーイの上級班長として一年、自分はどちらの奉仕に何いているか知ることができたし、それを拡充することもできたと思う。キャンプにおいても、時間のゆたかりした流れを皆無で過ごす時間のもてたボーイのキャンプ、時間のゆたかりがなくても大へん充実したプログラムであったカブのキャンプ。その中で得たのはやはり、自分は、中国人やインド人のように時間のゆたかりした流れを追うよりも、先達国国民のように、充実した時間を過ごすようになった。それには、僕の日常生活が分単位で動いているからかも知れないが、大きな時間を感じる余裕がなく、大へんではつまらない状態に追いやられてるからかもしれない、しかし、自分がカブのリーダーというものを選んだからには、何事があるとしても逃げることはできないし、何でもしていかねばならない、そしてリーダーとして活躍することか必要なのだ。

そしてもう一つ、奉仕も大切なのだが、もう一つ大事なのが、自分自身の活動のことであろう。導スカウトとなって、後輩の見本とはなったが、自分自身、最大の夢であった、富士スカウトには少しとどかなかった。やはりこれは、自分自身がなまけたからからだ。今年の5月で富士を覚悟したときにはもうすでに遅かった。高ニから始めていけばよかったことはなかったが、心の余裕もなかったし、学校の生徒会の副会長としてやらなければならなかったのが山ほどあった。しかし、自分自身、高ニの時から富士になるよりも、目標の大学に入るのの方が自分自身には大事に思っていたからでもある。今、言ったことは単なる結果論に過ぎない、しかし、今、僕はどう考えても、形ある目標(進級)よりも、達成できないかもしれないがとてつもなく大きなものを自覚したという気持ちの方が強い。もし、僕が立命館大学だけしか意識していなければ、チャンスがあったかもしれない、いくら形のない目標に近づこうとしても達成できずに立命館大学に進学するかもしれない。しかし、少しでも近づこうとした努力と自信、形ある目標を達成できなかった喪失感が僕の人生をいつまでも目標あるものにし、永遠に充実した生活を送れるのではないかなと思う。これをこれからのローバーリングにつなげていきたい

自分はシニア活動を三年間 やってきたわけだが、自分なりににはめにあつた期間だったと思う。特に進級面に関しては、年をとり、そのうえ、富士をぬかい、今こに、目の前までの所にある。やはり、スカウトをやっている上で、やはり、富士登山、狩りたいものだ。そのためにも、今というときを、大切にしたいし、今しか、ガンバル心はないと思う。

三年間、シニア隊としていろいろなことをしてきた。北海道遠征や、能登遠征、又、北山地区のシニアとして、8、11、12にも、京都の奉仕隊として、参加してきた。いろいろ自スカウトと接する機会があった。三年間、とてつもない経験ができた。この経験を今後いかしていきたいと思う。

この今年、受験なので、一時、スカウト活動を休んでいるが、春にまた、又、スカウト活動に復帰し、ローバーの活動に力をいれたいと思う。しかし、自分、ローバー、1年目なので、いろいろなことか、新しいことばかりなので、日々、年にかえることか、出て来ると思うが、それは、時間をかけて、一つ一つ自分のものにしていきたいです。

各隊への奉仕に行くことは、たくさん、地区、日時など、いろいろな奉仕を通じて、自分のために、今後、世の中を生きていくうえで、よりよいものに自分をまたえていきたいです。

松本 進典

シニアを今までやっていて思ったことは別にたいてい  
なかったように感じた。ボーイ・カブ時代は1回1回の集会所が  
あったために何にかと学んだように思える。スカウト活  
動の中でシニアの時間が中絶する時期があったように思  
う。シニアでは1年1月の時の遠征以外お祭り印像に残った  
ことがなかった。カブ・ボーイへの報社もほとんど11か  
がに断絶してしまった。カブ活動をやっていたからという  
理由も11も進んでいたような気がする。11もやって  
いたことが中途半端でだらだらしてしまっただけで、11から  
思うとはずかしく思うことや後悔するものがたしかにある。あの時  
お祭り印像はかたなど、その時なっとかしておけば進級も  
できたと思う。しかしなぜそのようにだらだらしてしまっただけか  
は、今でも不思議に思う。たぶんスカウト活動に新鮮味が  
なくなるとなれば川になつてしまったからだと思うが……

今年から上進してローバーになったことでお祭り  
お祭り印像で子供だけなると常に新鮮味ある集  
会にしてほしいと願っています。

たしなむら じろう。

～シニアの三年間を振り返る～

シニア3年間なんやかんやと続けてきて、  
シニアの3年間の何を学び何を振り返りたか  
かと言うと、とにかく自己の方針をして、後を  
振り返る前に、常に前進あるのみで、今日、いたっ  
ているというこころ、過去のあやまちを、にきりついで  
またというこころ。

シニアの活動とは別のものになるけれども、二年  
間ボーイの活動に参加してきましたが、初年度は、  
最初というこころ、失敗、失敗のくり返しを繰り返して  
その失敗にたつた理由などを自己で改善し  
ボーイ活動二年目を続けました。二年目は、後を  
振り返る前に、前進あるのみで、やっていく、二年目  
あたりの活動もわりと完璧とはいえないけれども、節  
々に納得いくようにやり全体的に見ると、  
スムーズに、出来たのは、ないかと思う。

しかし、もうすぐ大学入試と言う大波が押し寄せて  
いるというこころ、苦しいことは苦しいけれども、何もな  
りやうに準備完了するのはなりかと思う。

とにかく、自己の方針としては、中途半端、というの  
一番きついのは、という結果が出ようか、自分  
に完璧に思えるような、年になつていくと頑張りたい  
と思う、と、で、まじることならば、四月までに良い結果  
が得られるように頑張りたいと思う。仮に悪い  
結果が出たとしても、来年度一年間積極的な活動は、  
おとすことにはないかと思うが自分なりに、  
努力したいと思う。

昭和54年12月25日 福永幹也

